

# 第4回石岡市複合文化施設整備審議会 会議資料

---

令和5年9月20日(水)開催

# 第4回審議会のポイント

---

## ○施設整備とまちづくり

新施設における多様な活動を通じて「ひとづくり」「まちづくり」、最終的には「誰もが輝く未来へ 共に創る石岡市」の実現を目指す。

## ○新施設における実施事業

制作型自主事業に軸足を置き、世代に応じた文化芸術に関する事業を計画。中でも“子どもたちのための文化施設”をキーワードと、文化部活動の拠点とした取組みや若者文化に焦点を当てていく。

## ○ホール機能

演じる側、観る側双方にとって利用がしやすい市民による、市民のためのホールを目指していく中で、適正な規模を導いていく。

## ○ホール以外の機能

利便性や魅力度を高めるために求められる施設機能を、高校生ワークショップで出された意見等を参考にしながら定めていく。

# 1. 施設整備とまちづくり

---

# 文化施設(ホール)に期待される役割・機能

## 劇場、音楽堂等の活性化に関する法律(平成24年施行) 前文より抜粋

### ▶文化芸術を継承し、創造し、及び発信する場

▶人々が集い、人々に感動と希望をもたらし、人々の創造性を育み、人々が共に生きる絆を形成するための地域の文化拠点

▶個人の年齢若しくは性別又は個人を取り巻く社会的状況等にかかわらず、すべての国民が、潤いと誇りを感じることでできる心豊かな生活を実現する場

⇒常に活力ある社会を構築するための大きな役割を担っている

▶人々の共感と参加を得ることにより「新しい広場」として、地域コミュニティの創造と再生を通じて、地域の発展を支える機能＜地域における機能として期待される部分＞

▶国際化が進む中では、国際文化交流の円滑化を図り、国際社会の発展に寄与する「世界への窓」にもなること＜文化の発信と受容の場として期待される部分＞

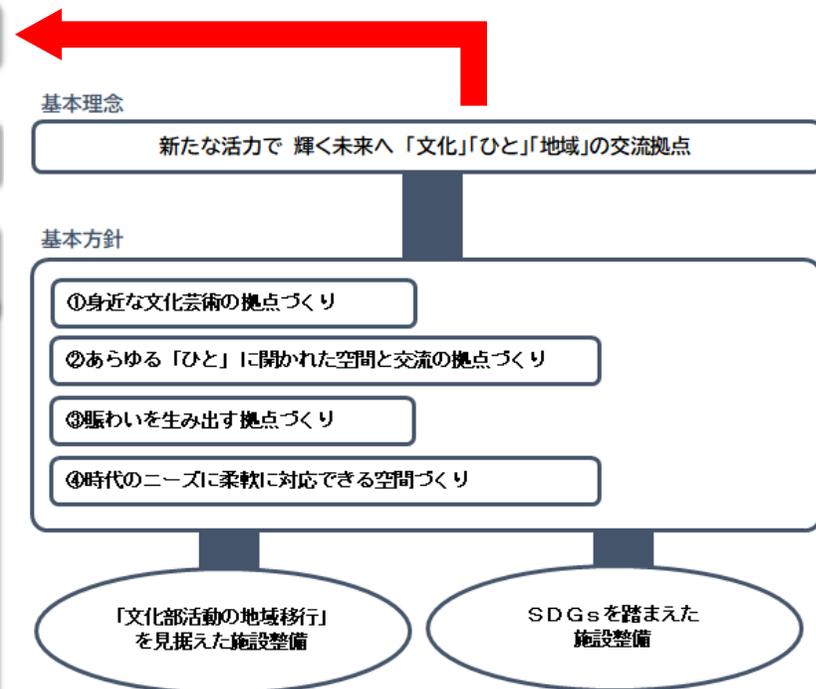
# 「複合文化施設整備」とまちづくり

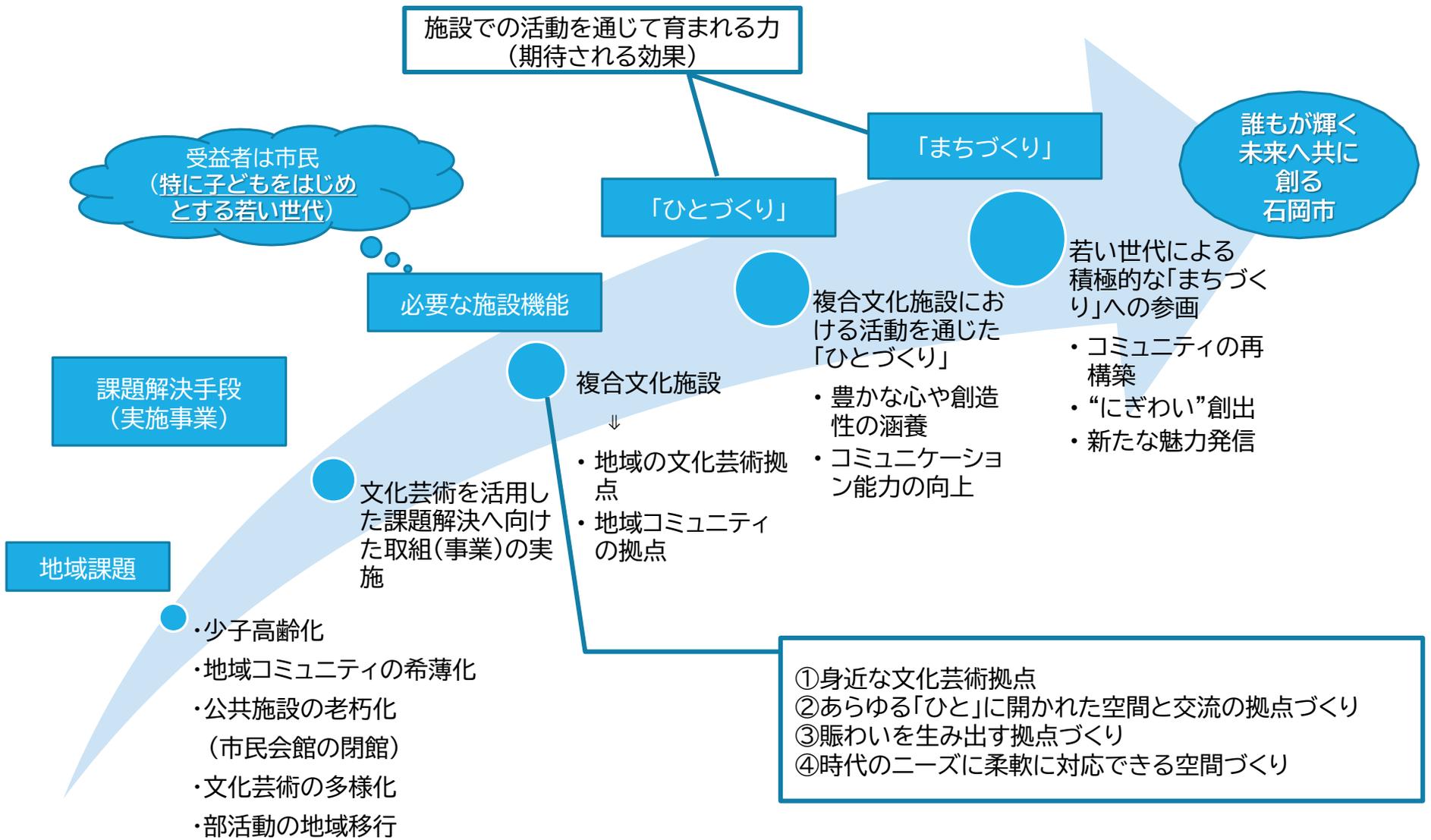
複合文化施設での様々な取組みを通じて、総合計画で定める市の将来像の実現を目指します。

## 《石岡市総合計画》



## 《複合文化施設整備基本構想》



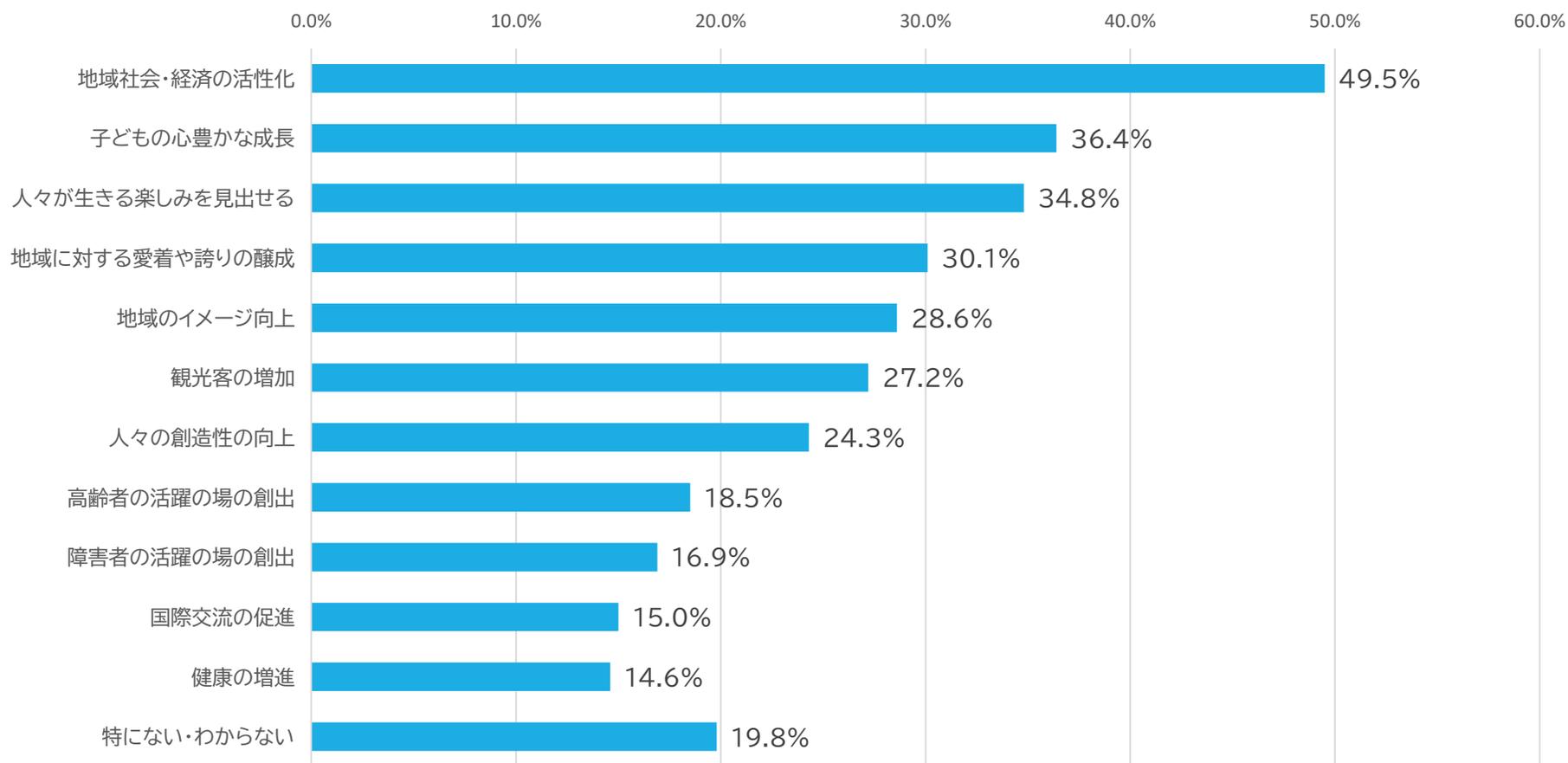


複合文化施設を拠点として、文化芸術を活用したひとづくり、まちづくりを展開し、市の将来像である「誰かが輝く未来へ 共に創る石岡市」の実現を目指します。

## ○日本の文化芸術の振興を図ることにより社会にもたらされる効果として期待することは？

「地域社会・経済の活性化」との回答が49.5%と最も高く、ついで「子どもの心豊かな成長」(36.4%)、「人々が生きる楽しみを見出せる」(34.8%)が挙げられている。

文化芸術振興による社会効果





文化芸術を活かし、複合文化施設を拠点に生み出される  
新たな活力をまちづくりに生かしていきます。



## 2. 新施設における実施事業

---

# “地域における文化拠点”にふさわしい事業とは

“地域における文化拠点”であるために、文化芸術や地域文化を次世代を担う子どもたちへの継承すること、文化芸術を通じた人との交流(人とつながる喜び)を推進するなど、文化芸術を身近に感じることができる文化芸術施策の展開が必要であると考えます。

そのためには、行政、市民、学校、地域、文化芸術団体等が連携し企画・立案した事業を数多く実施していくことを検討します。



積極的な貸館事業の展開  
→優れた文化芸術の鑑賞機会  
の充実を図る。

自主企画事業のうち、制作型事業を中心に行っていきたいと考えています。

また、市民や文化芸術団体等との共催事業あるいは後援事業を実施することにより、市民が文化芸術に触れる機会を増やす取り組みについて検討していきます。

# 想定する実施事業

## ～基礎調査業務報告書より～

基本理念	事業	想定される事業機能
①身近な文化芸術の拠点づくり	鑑賞事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演劇・ミュージカル・伝統芸能等の公演</li> <li>・文化芸術の知識や理解を深める鑑賞講座</li> <li>・文化芸術に触れる機会を増やす共催・後援事業 等</li> </ul>
	創造事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品創造などのワークショップ</li> <li>・市民参加型の作品の創造 等</li> </ul>
	継承事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の伝統文化の学習並びに継承支援 等</li> </ul>
	普及事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験型ワークショップ</li> <li>・アウトリーチ活動 等</li> </ul>
	情報発信事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報誌等の定期発行</li> <li>・市民の文化芸術の関心を集め、高めるプロモーション等の展開 等</li> </ul>
	人材育成事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの育成事業、市民サークル等の活動支援</li> <li>・市民リーダー等の養成講座</li> <li>・文化芸術活動団体への支援</li> <li>・ライフステージにあわせた開かれる教室 等</li> </ul>
②あらゆる「ひと」に開かれた空間と交流の拠点づくり	交流連携事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣の文化施設等との協働連携事業</li> <li>・学校(市内中学校、高等学校)との連携</li> </ul>
③賑わいを生み出す拠点づくり		情報発信事業
④時代のニーズに柔軟に対応できる空間づくり	創造事業	

# 世代に応じた文化芸術の推進の検討

幼少期から継続的に文化芸術に触れる機会を創出することにより、豊かな創造力・想像力や思考力、コミュニケーション能力等を養うとともに、文化芸術の創造や承継へつなげていくことが重要であると考えます。そのため、新施設では世代に応じた文化芸術推進のための事業を実施していきます。

幼少期

小学校

中学校

高校

大学

成人

高齢者

## 【重点事項】

- ▶ 将来を担う子どもたちへ豊かな文化芸術体験の提供
- ▶ 学校のみ依存することなく、行政、地域、学校が連携して鑑賞や体験の機会の充実
- ▶ 子どもたちの“やりたい”という思いの実現へ向けた支援

子どもたちが文化芸術へ触れる機会を増やすことにより、「ひとづくり」を担っていく



# 文化部活動の新たな活動拠点

## ▶子どもたちが地域で継続的で質の高い多様な文化芸術活動の機会を確保

新施設を活動拠点として、地域・学校・文化芸術団体等が連携していくことにより、持続可能な文化芸術活動の環境を提供していきます。

子どもたちのための文化芸術の活動の場を確保することは、子育て環境整備の一環  
[スポーツ]運動場、野球場、サッカー場、テニスコート等が整備  
[文化芸術]ホール、和室、スタジオ、展示ギャラリー等

## ▶茶道、華道、舞踊、囲碁、将棋、俳句等の生活文化を計画的・継続的に体験することができる機会の提供

## ▶日頃の活動成果を発表する場の提供

## ▶市内の3つの県立高校(文化部活動)や地域との交流事業の展開



**多くの課題等もある中で、関係者と調整を行いながら実現へ向けて取り組んでいく。**

# 文化部活動の新たな活動拠点

現状として、中学校で設置されている文化部の種類は少ない。一方、高校では茶道、華道、書道といった多様な部活動が設置されています。

## 市内中学校において設置されている部活動(R4.4.1現在)

学校名	部活動の種類
石岡中	吹奏楽部、美術部、総合文化部
国府中	吹奏楽部、美術部
府中中	吹奏楽部、美術・PC部
園部中	吹奏楽部
八郷中	吹奏楽部、科学部、美術部



多様な文化芸術活動の機会の創出

## 市内3つの県立高等学校において設置されている文化部(R4.4.1現在)

学校名	部活動の種類
石岡第一	ダンス、文芸、美術、写真、音楽、演劇、茶華道、将棋、書道 等
石岡第二	書道、美術、写真、吹奏楽、演劇、茶道、華道、軽音 等
石岡商業	吹奏楽、華道、美術 等



交流による活動の充実とにぎわいの創出

# 若者視点による事業展開の検討

## ▶“若者視点”を取り入れた事業の企画・立案

若い世代が新たな視点から文化芸術を考えていくきっかけづくりとした事業展開

【例】ブレイクダンス（2024年パリ五輪で競技種目へ追加）やダブルダッチなどにも利用できる施設として整備し、活動や情報発信の場として活用していく。



**関係施設との連携を図りながら複合文化施設を中心に、若い世代による“新しい文化”を情報発信していく事業展開を検討**

### 【参考】若者文化の発信によるまちづくり(神奈川県川崎市)

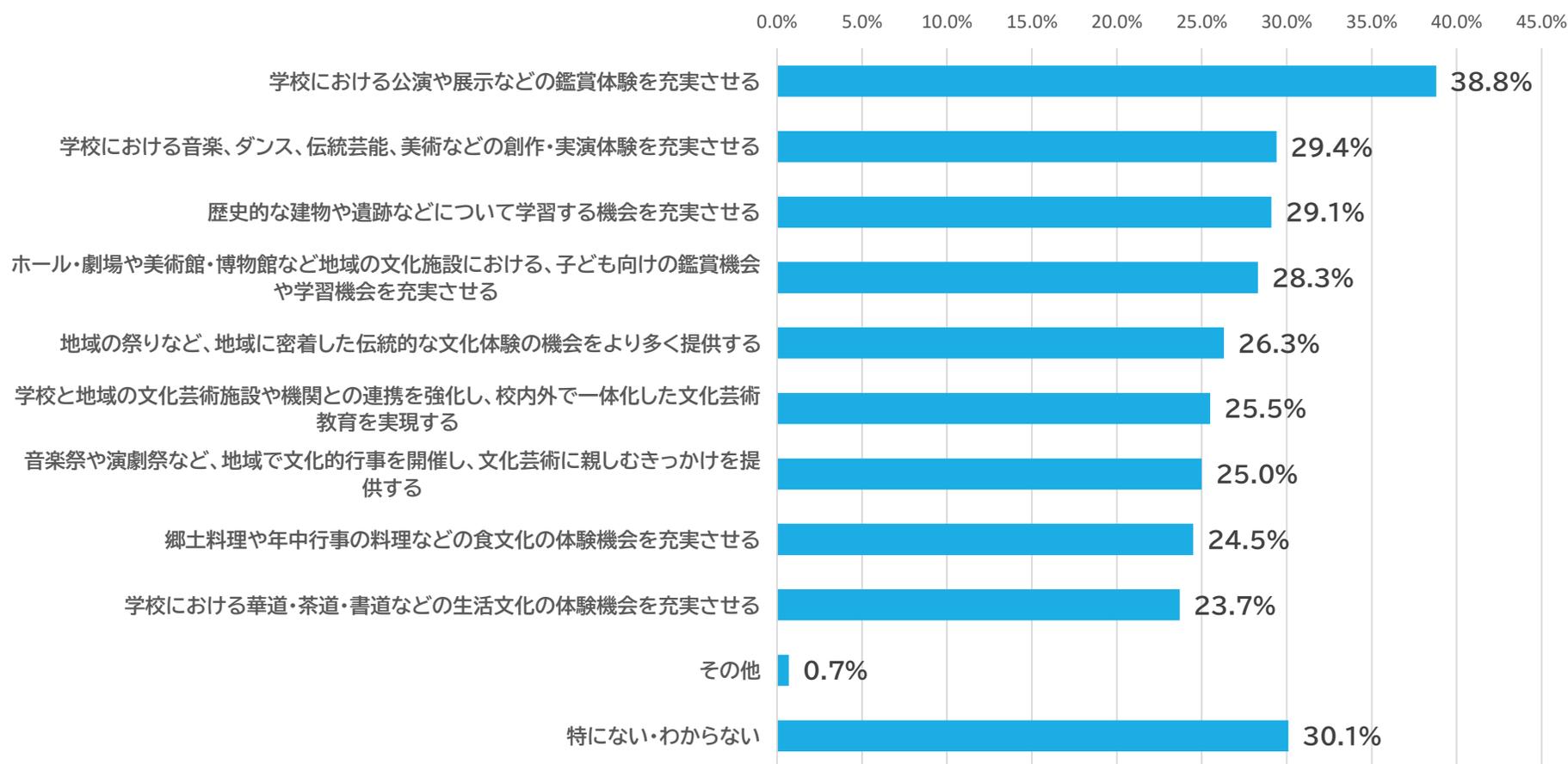
川崎らしい地域資源である若者文化の発信により市の魅力を高めることで若い人たちが集い、自らの可能性を広げ、挑戦できる環境づくりに向けた取組を進め、「若い人が多い」「若者による文化が盛んである」という特徴を生かした持続可能なまちづくりを進めている。

- ▶「若者文化の発信によるまちづくりに向けた基本方針」(2018(平成30)年10月策定)
- ▶「若者文化の発信によるまちづくりに向けた環境整備等に関する基本計画」  
(2019(令和元)年11)月策定)
- ▶若者文化の体験会(市主催)をはじめとするイベント等の開催  
→ダブルダッチやパルクールの体験会、ダブルダッチの高校生大会 など

## ○子どもの文化芸術体験について何が重要か？

「学校における公演や展示などの鑑賞体験を充実させること」が38.8%と最も高く、ついで「学校における音楽、ダンス、伝統芸能、美術などの創作・実演体験を充実させる」(29.4%)、「歴史的な建物や遺構などについて学習する機会を充実させる」(29.1%)となっています。

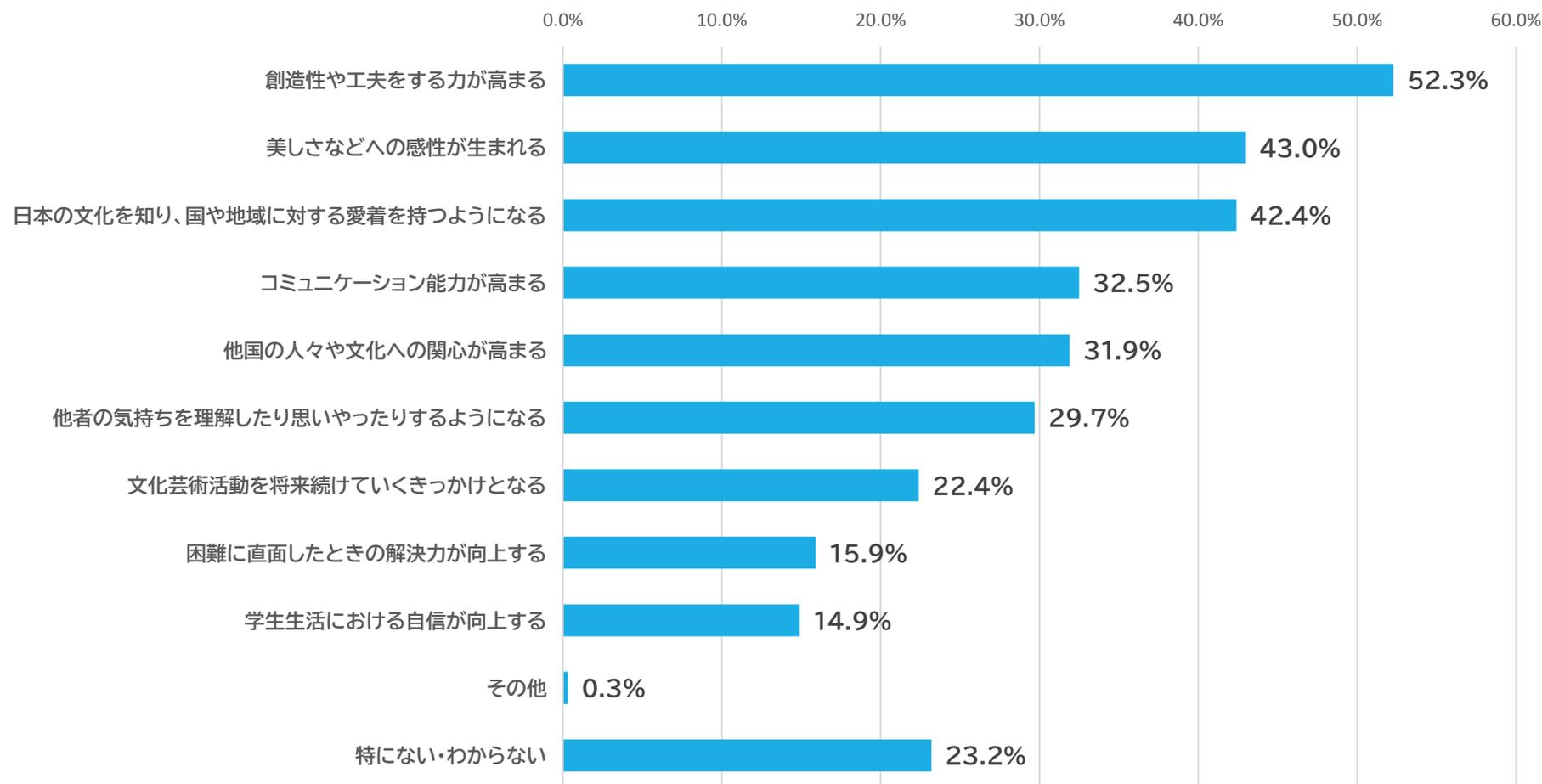
子どもの文化芸術体験で重要なこと



## ○子どもの文化芸術体験について期待する効果は？

「創造性や工夫する力が高まる」が52.3%と最も高く、ついで「美しさなどへの感性が生まれる」(43.0%)、「日本の文化を知り、国や地域に対する愛着を持つようになる」(42.4%)となっており、文化芸術体験への期待は高い状況にあります。

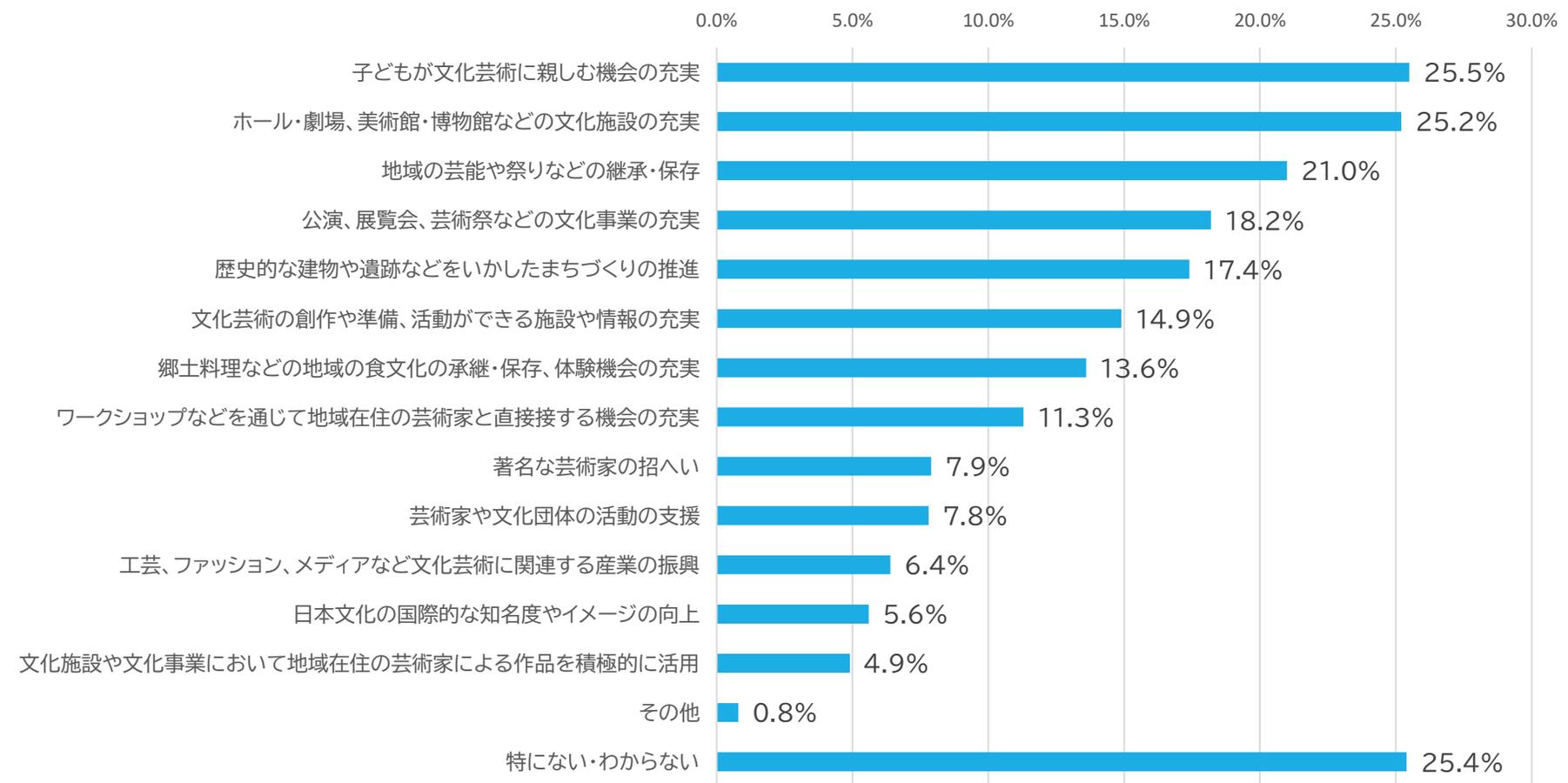
子どもの文化芸術体験の効果



## ○住んでいる地域の文化的な環境を充実させるために何が必要か？

「子どもが文化芸術に親しむ機会の充実」(25.5%)、「ホール・劇場、美術館・博物館などの文化施設の充実」(25.2%)が高く、次いで「地域の芸能や祭りなどの承継・保存」(21.0%)となっています。

地域の文化的環境の充実策

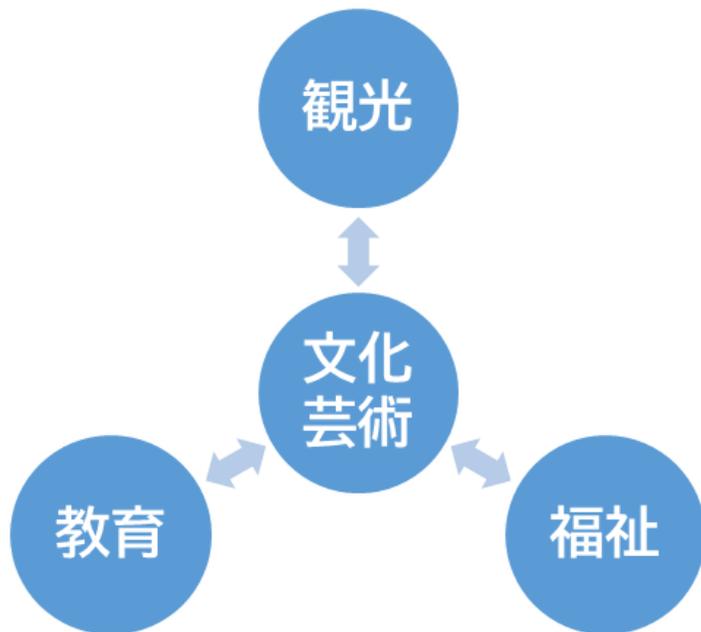


# 「文化芸術」と各分野との連携

## 文化芸術基本法

観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業その他の各関連分野における施策との有機的な連携を図ることが基本理念の一つとして掲げられている。

文化芸術の持つ多様な価値を活かし、人口減少前提での社会づくりが求められる中で、人が成長し、産業がかけ合わさり、地域がつながるため、石岡市ではどのような事業が展開していけるのか、分野連携から検討を進めます。



文化芸術 ⇕ 観光	現在、庁内関係部局と 協議中
文化芸術 ⇕ 福祉	
文化芸術 ⇕ 教育	

# 長期的かつ継続的な事業展開

## 劇場、音楽堂等の活性化に関する法律

文化芸術の特質を踏まえ、国及び地方自治体が劇場、音楽堂等に関する施策を講ずるにあたっては、**短期的な経済効率性を一律に求めるのではなく、長期的かつ継続的に行うよう配慮**する必要がある。



“まちづくり”あるいは“ひとづくり”という観点から考えると、**継続性**は重要であると考えます。  
また、公立文化施設だからこそ、採算性、効率性を追い求めるだけではなく、文化政策やまちづくり、ひとづくりのための施策として、10年後20年後といった将来を見据えた事業展開が必要であると考えます。

## 留意事項

人口減少を前提に、「長期的かつ継続的」という一方で、限られた財源の中で事業を実施していく上では、デジタル技術の活用など効率性を高めていく必要があります。

その検証結果や、多様化する市民ニーズを的確に把握しながら、柔軟に実施事業の見直し、政策効果を高めていく必要があります。

# “好きな文化芸術”で広がる人の輪



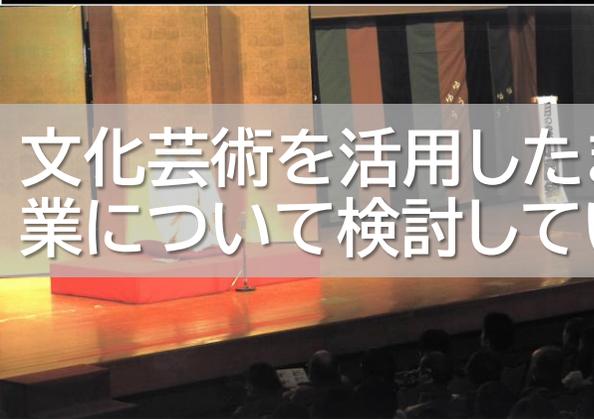
新たな複合文化施設では、多種多様な文化芸術に関する事業を展開し、多くの人に体験できる機会を提供していきます。

そして、市民一人ひとりが文化芸術について見つめ直し、ひとつでも興味関心があるものを見つけ出し、それを基に人と人がつながっていく場所であってほしいと考えます。

さらに、**次世代を担う若者にとって**

**あなたの“好きな文化芸術”があるまち いしおか**

であるために必要な実施事業を常に追い求めていきます。



文化芸術を活用したまちづくりを展開していくために求められる実施事業について検討していく必要があります。



# 3. ホール機能

---

# “市民による、市民のため”のホール

## ▶市民の文化芸術活動に必要なホール～演じる人の視点から利用しやすいホール～

石岡市に居住、通勤・通学、活動拠点を置くすべての人の文化芸術活動(鑑賞、参加、創造等)の期待に応えられるホール。

具体的には、音響や照明といった設備面(性能の良さや利用サポート等)の充実、十分な広さが確保された舞台、演じる側(運営サイド)にとって動きやすい動線の確保(楽屋、倉庫、搬入口の位置関係)といった点に留意していく必要があるものと考えます。

## ▶感動と笑顔をもたらす、市民のためのホール～観る人の視点から利用しやすいホール～

観る人にとって満足度の高いホール。

具体的には、視認性(見やすさ)や音響(豊かな音の響きを体験できる等)、座りやすい座席といった点に留意していく必要があるものと考えます。

## ▶多様性へ配慮したホール

子どもから高齢者、障がい者など、誰にでも利用しやすいホール。

# ホールに必要な諸室

【参考】小美玉市四季文化館みの～れ)

【ホール】



【楽屋】



【備品倉庫】



【照明】



【音響】



【ピアノ庫】



# ホールの規模感について

## ▶ホールの規模感を考える上での基本的な考え方

### 【ポイント】

・何をやるのか(実施事業等)ということが大きく影響

▶どのような事業を行うことで、年間を通じてホールを利用する機会が増えるのか？

**ホールの利用頻度(稼働率)が上がれば、ホールから文化芸術が広がっていく**

### 【今までとの変わる部分】

・デジタル技術の活用

・座席幅:旧市民会館や八郷中央公民館とは異なるサイズ(ゆったり感)

・利用形態や時代の変化に柔軟に対応できる舞台装置の整備や諸室の配置

・ユニバーサルデザインの強化

### 【課題】

・ホールの大規模・高機能にすればするほど、建設コストや供用開始後の維持管理コストが膨れ上がることが考えられる。

# ホールの規模感について

## 【県内における状況】

水戸市民会館が2,000席(大ホール)、茨城県民文化センターが1,514席の他、当市に隣接する小美玉市四季文化館600席、小川文化センター1,081席、土浦市民会館1,019席となっています。

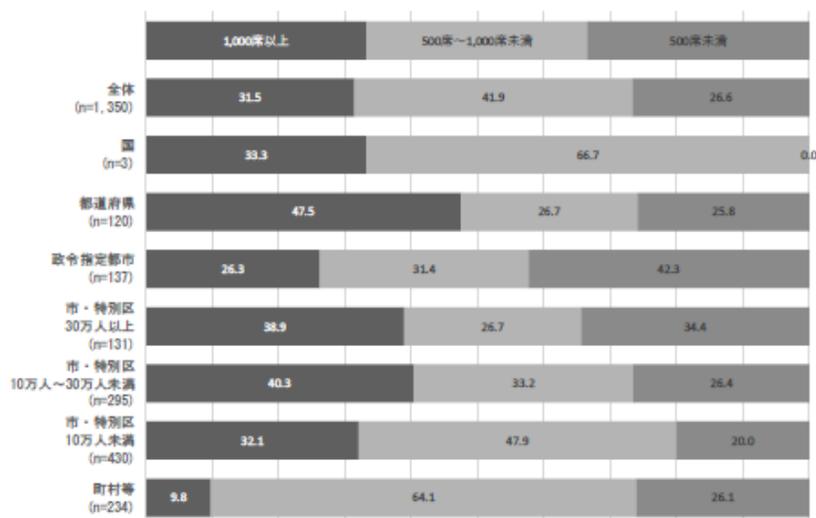
## 【全国的な状況】

令和2年度公立文化施設の運営情報調査報告(公立文化施設協会)によると、10万人未満の市・特別区において、1,000席以上の設置団体が138件(32.1%)、500席～1,000席未満が206件(47.9%)、500席未満が86件(20.0%)となっています。

最大ホール総席数

	n 数	1,000席以上		500席～1,000席 未満		500席未満			
		施設 数 (件)	比率 (%)	施設 数 (件)	比率 (%)	施設 数 (件)	比率 (%)		
国公立施設全体	1,350	425	31.5	566	41.9	359	26.6		
設置団体別	国	3	1	33.3	2	66.7	0	0.0	
	都道府県	120	57	47.5	32	26.7	31	25.8	
	政令指定都市	137	36	26.3	43	31.4	58	42.3	
	市・特別区	30万人以上	131	51	38.9	35	26.7	45	34.4
		10万人～30万人未満	295	119	40.3	98	33.2	78	26.4
		10万人未満	430	138	32.1	206	47.9	86	20.0
町村等	234	23	9.8	150	64.1	61	26.1		

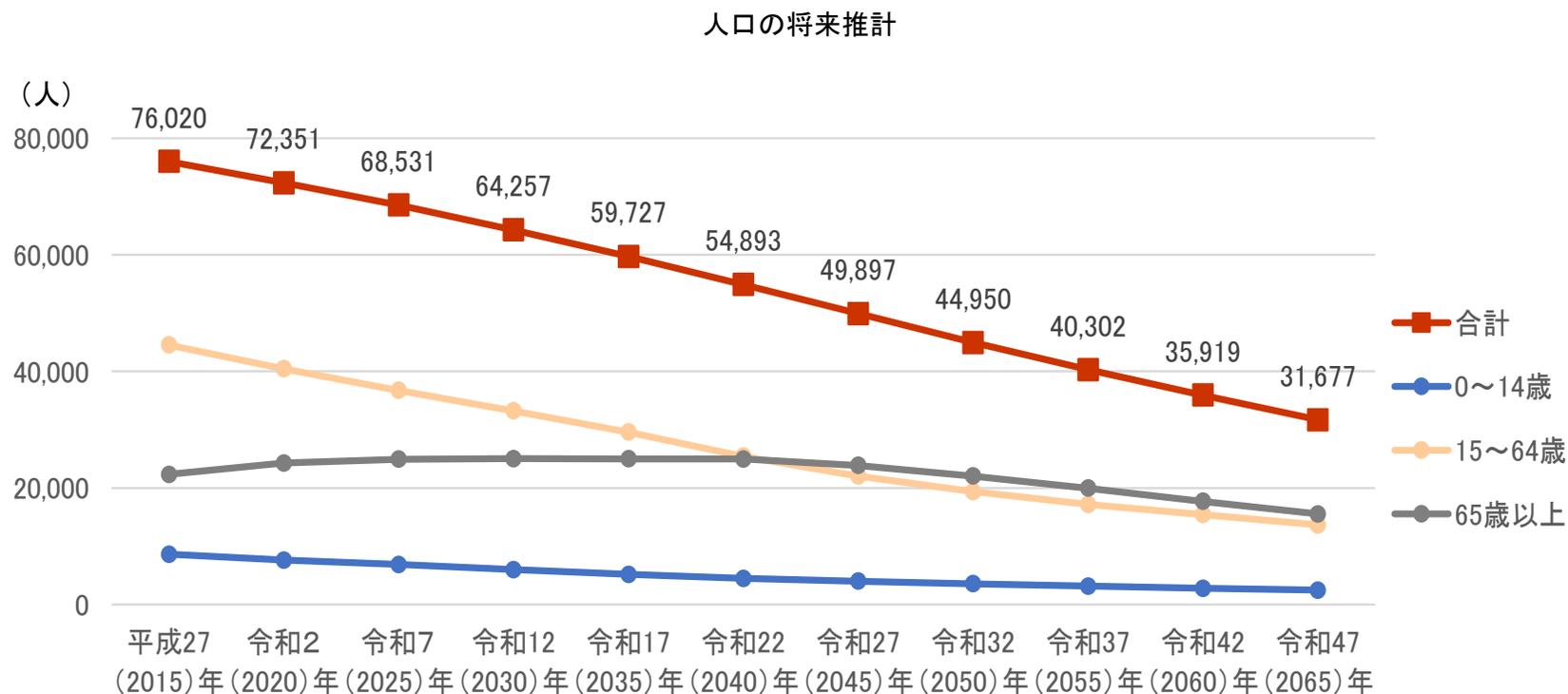
最大ホール総席数



# ホールの規模感について

## 【石岡市の将来人口推計】(石岡市総合計画より)

将来人口推計をみると、施設が供用開始する令和12年には64,257人、10年後の令和22年は54,893人、20年後の令和32年には44,950人となる推計されます。



出典：常住人口調査のデータに基づき、コーホート要因法にて推計（平成27年、令和2年は実人数）

# ホールの規模感について

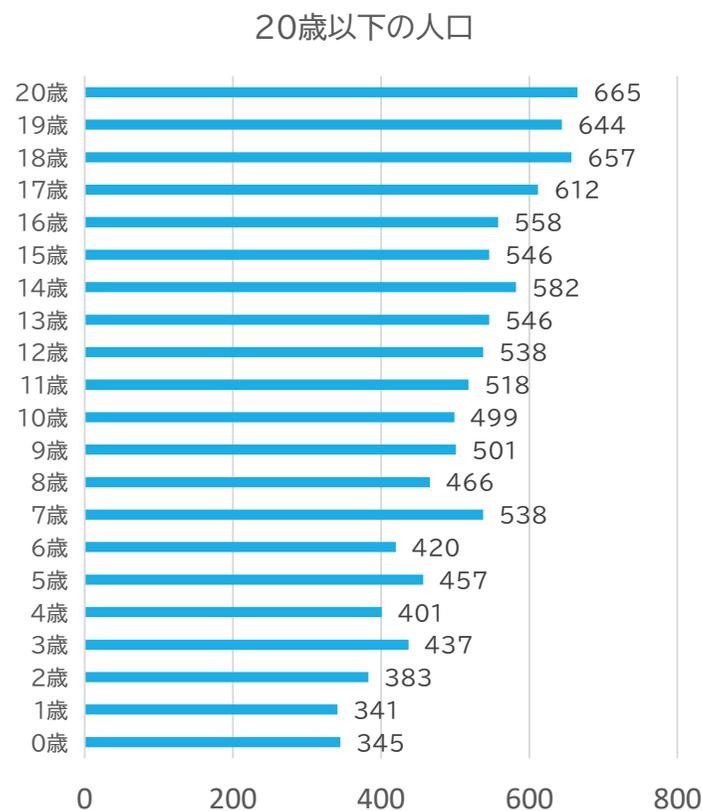
人口減少により児童・生徒数も減少しており、今後より顕著になっていくことが想定されます。それに伴い、成人式など今まで実施されてきた事業についても規模が縮小する等の状況が見込まれます。

【市内小・中学校の生徒数(R5.5現在)】

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
小	435	547	478	519	511	540
中	526	539	564			

※小学校: 19校 中学校: 5校

【0~20歳の人口(R5.4現在)】  
(茨城県常住人口より)



少子高齢化に伴い、児童・生徒数も減少傾向



・今まで小中学校単位で実施されてきた事業(イベント等)についても規模等見直し

# ホールの規模感について

▶新施設におけるホールをイメージする ⇒ 旧市民会館における利用状況(H30実績)

集客人数	旧市民会館での利用実績(人数、日数)	想定される事業展開
1,000人規模	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校による合唱コンクール 約950人 1日</li> <li>・興行(落語) 約900人 1日</li> <li>・幼稚園による発表会 約900~600人 3日</li> <li>・石岡市民の日 約850人 1日</li> <li>・安全安心まちづくり市民大会 約800人 1日</li> <li>・児童演劇鑑賞教室(市) 約800人 2日</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校吹奏楽コンクール(県南大会)</li> </ul>
700人規模	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内小中学校音楽発表会 約750人 1日</li> <li>・成人式 約700人 1日</li> <li>・興行(落語、歌謡ショー) 約600人 3日</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成人式</li> </ul>
500人規模	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出初式 約500人 1日</li> <li>・石岡市文化祭 約400人前後 6日</li> <li>・茨城県芸術祭合唱演奏会 約400人 1日</li> <li>・民間団体による発表会 約400人 1日</li> <li>・映画上映会(市自主事業) 約400人~200人 4日</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・石岡市文化祭</li> <li>・合唱祭</li> <li>・石岡囃子連合保存会発表会</li> <li>・石岡シニアアンサンブル定期演奏会</li> </ul>

# 小規模ホールの有用性の検討

## ▶市民サークル等の小規模団体でも利用しやすいホールの必要性

イメージとしては・・・

- ・150～200人程度収容可能なスペース
- ・ダンススタジオや軽スポーツ、小規模集会、ギャラリー等、多目的な利用可能なスペース
- ・開放的なスペース(エントランス等との一体利用 等)



## ●どのような活用を想定するのか？

市民や学生等のミニサークルによる発表会、  
小学生によるピアノ発表会、講演会、講習会、イベント 等



**活動規模が小さい団体に対しても、多様な活動や発表ができる場所を提供**

**⇒ 少しでも多くの市民(子ども、若者)に文化施設を利用してもらう**



将来の石岡市にふさわしいホールを検討していく必要があります。



## 3. ホール以外の機能

---

# 複数の機能を合わせて整備する目的

今回の複合文化施設整備事業では、文化ホールを中心とし、その他に民間施設や行政機能を合わせて整備していく予定です。

## 【期待される効果】

- ①新しい相乗効果や付加価値
- ②多様な市民サービスの提供
- ③老朽化する施設の再編と運営の効率化

新たな価値、サービスを生み出すとともに、文化芸術に触れる機会や多世代の交流へとつながることを期待



## 大和市文化創造拠点シリウス(神奈川県大和市)

図書館、芸術文化ホール、生涯学習センター、屋内こども広場を中心とした複合文化施設

平成18年7月竣工。延床面積 26,003平方メートル

# 庁内検討の際に出された施設機能(候補)

No	機能概要	整備を求める機能
1	文化芸術に触れる機会の創出と、市内の文化芸術団体の活動の場	展示ギャラリー(常設)、美術品の収蔵庫、企画展示ギャラリー、練習用ホール、着付化粧室、茶室
2	図書館機能(市立中央図書館) 図書の貸出、読書普及活動、学習室の提供 (市立中央図書館、こども図書館本の森)	ブラウジング、開架書庫、学習室、読み聞かせ室、ボランティア室、展示スペース、視聴覚室、対面朗読室、閉架書庫、事務室、会議室
3	公共施設であることから、一定の防災機能を整備する	避難スペース、防災備蓄倉庫、外部給電設備、大型車両駐車区画
4	子育て支援・子育て相談機能	子どもの遊び場、子育て相談室(個室)
5	コミュニティ機能 地域住民の相互交流及び教養文化の向上を図り、住みよいまちづくりを推進するための拠点施設。また、レクリエーションや文化教養の向上など健全な余暇活動を提供するなど、まちづくりを推進するための拠点となる施設	会議室、多目的ホール、音楽室、和室、軽運動室
6	観光協会事務所(物販販売スペース含む)	事務所機能、物販スペース

# 審議会でのワークショップで出された意見

## 地元食材等の活用

- 地元食材を活用したレストラン
- 地酒を活用したブース(飲食&販売)
- 地元食材のPR

## 文化・歴史・芸術の活用

- 石岡の文化を学ぶ場所
- 歴史・芸術の展示スペース  
(ギャラリー等)

それぞれを連携させることで  
魅力アップ

## 子ども・若者のためのスペース

- 学習スペース
- 子どもの遊び場
- スタジオ(音楽、ダンス等)

### 【主な意見】

- 人が集まるための工夫が必要
- 人が時間を楽しめる場所であり工夫が必要
- ホールに行くきっかけや市民が繋がりを持てる場所
- 多くの施設(機能)を入れてしまうと地域の活性化につながらない。  
⇒外に出した方が地域全体の活性化としては有効。機能を絞った方がよい

# 高校生ワークショップ

高校生ワークショップを行いながら、高校生が考える複合文化施設について考えてもらい、取りまとめている段階です。次回(10月18日)が最終回となり、最終的な取りまとめと発表を行う予定となっています。

今後、高校生から出された意見等については当審議会とも情報を共有し、できる限り反映していきたいと考えています。





どんな機能を整備することが“まちづくり”に貢献するのか  
検討を進めます。

